

田井貞孫 じんま 小説家、隨筆家。明治三十六年八月十一日東京生れ、昭和四十八年二月十九日歿（一九三―七三）。法政大學經濟學科卒。「報知新聞」記者を経て母校の教授となり、新聞學を講じた。のち野村胡堂に師事して「馬城おぼろ月」、「虹晴れ美女峠」等の作品を書き、昭和二十三年日本捕物作家クラブ幹事長。また「日本海軍新聞」の十八年間連載した「ラムロウきぶくろ」（昭和四十二年一月―日本海軍新聞社）や、雑誌「旅客船」の数年まで七年間連載した小説「セウ枕」は好評を得た。

他に「色模様 江戸から東京へ」（昭和二十一年四月十五日20世紀社）、遺著「余録草紙」（昭和五十年四月十日ほりも社）等。

